



愛知労働局長がベストプラクティス企業を視察訪問しました

愛知労働局では、令和2年12月7日、伊藤正史局長が時間外労働の削減に積極的に取り組む愛知県あま市の中日本炉工業株式会社（従業員数114名）を視察訪問し、後藤峰男代表取締役社長らと対談しました。

同社は、真空炉、電気炉等を設計・製造・販売するとともに、自社の炉を用い熱処理・表面処理の加工も行っています。

同社では、その技術力により、コンスタントに売り上げを伸ばし、その受注をこなすため恒常的な長時間労働や休日労働を許容していましたが、平成29年に労働基準監督署から長時間労働是正の指導を受けたことを契機に労働時間短縮に本気で取り組むこととしました。

長時間労働の解消には、新卒・中途採用に注力してきました。とくに、職人気質のベテラン社員の理解を得ることなど苦労もありましたが、トップの決断で、働き方改革を推進していきました。



＜生産状況の見える化の説明を受けている様子＞

具体的には、IoTを活用した業務の省力化や効率化、生産工程・作業工程のリアルタイムでの見える化と併せて、社員全員の勤務状況も大型モニターで見える化し、労働時間や休暇・休日に対する意識改革を進めました。

また、設計部門では、1人が1基の炉の基本設計から部品設計まで一貫して担当したものを、基本設計、詳細設計、部品設計に分業化し、ベテラン・中堅・若手によるチームでの対応としたことで、業務負担が分散するとともに技術伝承もしやすくなりました。

後藤社長は「社員が働きやすい環境をつくるのが社長の仕事」「社員の能力を向上させ、効率のよい仕事をするという職場の改善が大事」と話していました。

